

# CSR SECTION

## CSR情報

お客さま	34
従業員	36
株主・投資家	38
取引先	39
地域・社会	40
地球環境	42

## CSR基本方針



ヤマハ発動機グループは、社会からより信頼される企業として、国内外の法令ならびにその精神を遵守するとともに、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切に、企業理念に基づく事業活動を通じて、社会の持続可能な発展に貢献します。

取引先においても、この方針の趣旨を支持し、それに基づいて行動することを期待します。

### お客さま

- ・安全で高品質かつ革新的な製品とサービスを通じて、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供します。
- ・製品に関する有益な情報を分かりやすく提供します。
- ・お客さまをはじめ事業活動にかかわる人々の個人情報保護の徹底に努めます。

### 株主・投資家

- ・長期安定的な成長を通じた企業価値の向上をめざします。
- ・事業・財務状況と成果の適時かつ適正な開示を行います。

### 従業員

- ・均等な雇用機会を提供し、従業員の多様性を認め、差別を行いません。
- ・公正な労働条件を提供し、安全かつ健康的な労働環境を維持・向上するよう努めます。
- ・人権を尊重し、いかなる形であれ児童労働・強制労働は行いません。
- ・従業員と会社が、相互信頼に基づき、誠実な対話と協議を行い、お互いに繁栄するよう努力します。

### 取引先

- ・調達先や販売店などの取引先を尊重し、相互信頼に基づき、長期的視野にたって相互繁栄の実現に取り組みます。
- ・調達先の決定にあたっては、国籍や規模にかかわらず広く世界に門戸を開き、総合的な評価に基づき判断します。
- ・各国・地域の競争法を遵守し、公正な取引を維持します。

### 地域・社会

- ・各国の文化・慣習を尊重し、企業市民として社会との調和に努めます。
- ・納税、雇用創出、モビリティ創出などを通じて、健全な地域社会の発展に貢献します。
- ・人材育成、環境保全、交通安全普及など社会貢献活動を推進し、また従業員の自主的な活動を支援します。
- ・行政府諸機関との健全かつ公正な関係を維持します。

### 地球環境

- ・環境技術の開発を進め、環境と経済が両立した製品の実現をめざします。
- ・限りある資源を大切に、事業活動による環境負荷の最小化に努めます。
- ・幅広く社会と連携・協力し、環境保全活動に取り組みます。

お客さま



## お客さまに感動を伝えるモノ創り企業を目指して

ヤマハ発動機グループが、お客さまとの関係をより密に保ち続けることで高めてきたもの、それがヤマハ品質、モノ創りの基本であり、これからも「お客さま基点」の考え方を生かした品質の向上と充実に向けた努力を続けなければならないと私たちは考えています。そのために、あらゆる部署がそれぞれの仕事の質を高める努力をしています。

ヤマハ発動機グループは今後も、「ヤマハブランド憲章」の精神に則り、豊かな感性を尊重し、お客さま基点に立ち、最良品質を指向し、安全性・信頼性を実現し、お客さまに感動を提供する活動に取り組んでいきます。

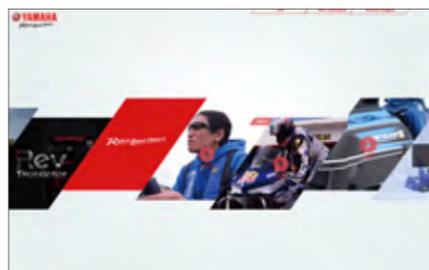
### 新たな感動の提供

当社が企業目的として掲げる「感動創造企業」とは、社会や環境との調和を図りながら、製品やサービスを通じて世界の人々に喜びや驚き、高揚感、豊かさや幸福感をもたらすものです。

その実現のために私たちは、モノ創りで輝き・存在感を発揮し続ける会社でありたいと思っています。モノ創りの原点はお客さまです。製品の魅力・信頼性・価格、すなわちお客さまへの提供価値を最大・最良化し、さらにお客さまの期待を超える価値を実現することによって、競争力を高めることが私たちの使命であると考えています。

### 夢を叶える信頼のものづくり

<https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/brand/>



当社ウェブサイトでは、「新たな感動」につながる製品・技術の一部を紹介しています。

### 品質向上への取り組み

ヤマハ発動機グループにとってお客さまの安全は何よりも大切なもの。お客さまがけがをしたり事故にあったりしないために、製品の質を高める活動はもちろん、製品の正しい使い方をお客さまに適切にお伝えする活動にも最大限の努力を続けています。

特に2015年からは、お客さまに「次もヤマハ」「次はヤマハ」と言ってもらえるように従業員1人1人が主役の「私がヤマハ。」活動を展開しています。これは、「ヤマハブランドを輝かせるのは他の誰でもない。私自身である」という高い当事者意識を従業員1人1人がお客さまを基点にして考えることで気づき力（発見力）を磨き仕事の質を高める活動です。4つの取り組み「お客さま感覚を磨く」・「もっと交流する」・「失敗に学ぶ」（TOPICS参照）・「良質な仕事をする」に組織として個人として取り組むことでさらなる品質向上に努めています。

### お客さま対応／サービス

ヤマハ発動機グループでは、お客さまからのご意見・ご要望は、製品やサービスへの期待の現れであり、1つ1つに対する誠実な対応がお客さまの満足度を高め、信頼につながると考えています。お客さまの製品への評価や使用状況を知り、品質改良や将来の製品づくりに生かすために、サービス対応の強化に取り組んでいます。

当社のカスタマー コミュニケーション センターは、モーターサイクル・マリナー製品・電動アシスト自転車・発電機・除雪機について、お客さまから製品やサービスに関するお問い合わせを承っています。寄せられたお客さまの声は、データベースに蓄積し、社内に展開することで製品の開発・改良やサービスの改善にもつなげています。

また、世界中で活躍するモーターサイクルの整備士の技術

力を高めお客さま満足度をさらに向上させるため、地域ごとの予選を勝ち抜いてきた精鋭を日本に集めて世界一を決めるコンテスト「ヤマハ・ワールド・テクニシャン・グランプリ」を2年に1度、開催しています。

### 安全普及活動

ヤマハ発動機グループはお客さまの安全を第一に考え、製品の質を高める活動はもちろん、製品の正しい使い方をお客さまに適切にお伝えする活動にも最大限の努力を続けています。

こうした取り組みは、お客さまに製品の魅力を伝えるカタログなどの広報物、各製品の取扱説明書に正しい使い方を記載すること、実際の使い方をよりご理解いただくライディングスクールをはじめとした安全普及活動など、多岐にわたります。

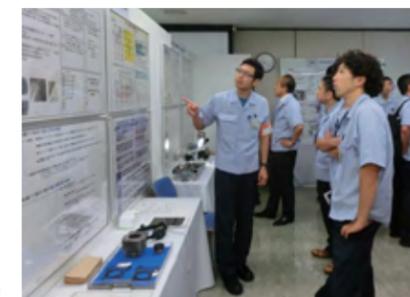
### > TOPICS

#### 失敗事例展示会を開催

当社のモノ創りは、先人たちが失敗を恐れずに挑戦することで成長してきました。しかし品質不良は、お客さまに多大な迷惑を掛け、当社のブランド価値を落とします。

ヤマハ発動機は、2015年からスタートした「私がヤマハ。」活動の1つとして失敗事例展示会を2016年から開催しています。これは、品質不良を起こした案件のパネルや現物展示、担当者による説明などを通して、失敗の真の原因を追求しその知識と経験を伝承し、失敗を予知・予防する能力を高めていく取り組みです。

ヤマハ発動機は今後もこの取り組みを継続的に実施していくことで、お客さまにご迷惑をお掛けした失敗を成功・成長の糧とする「人」と「風土」を醸成していきます。



## 従業員



## グローバルな視野と多様性の尊重

ヤマハ発動機グループはグローバルな視野に立ち、個人と会社が「高い志を共有し、研鑽しあい、協力しあい、喜びを分かちあう」組織体制を目指し、多様性が尊重される職場づくりを進めています。

### 人材育成

ヤマハ発動機は、ますます高まる世界規模でのビジネス展開を踏まえ、これまで以上に人材開発等に取り組むことが必要だと考えています。これを推進するため、人材開発面では、さまざまな対象に向けた人材育成プログラムを年々充実させています。

### 多様性を生かした職場づくり

ヤマハ発動機グループは「企業活動の原点は人」という基本認識のもと、人権に対する考え方を「CSR基本方針」「倫理行動規範」の中で明示しています。その上で、持続的な成長を確保するために異なる経験、スキル、属性を反映した多様な視点や価値観が重要と考え、多様な人材の確保を目指しています。

そのために、本社にグローバル人材開発部を設置し、全世界共通の幹部社員育成プログラムの開発・運用、競争力のある人材を育成・登用するためのグローバル人事制度の導入、グローバルな経験・見識を生かす組織づくりを進めています。国籍・原籍を問わず優秀な人材の経営幹部への登用を進め、海外子会社の経営幹部層については、2018年までに海外拠点役員クラスの60%にローカルタレントを登用することを目

指しています。

また、女性の活躍促進のため、女性の管理職登用数を2020年までに2014年の2倍、2025年までに3倍とする目標を掲げ、推進しています。さらに、本社での外国人幹部の登用、外国人採用の促進、働き方の選択肢の拡充等、さらなる多様性の推進に努めています。

障がいを持つ方に対しては、能力と適性に応じて活躍できる場の提供と社会的自立の促進を目指し、「ヤマハモーターMIRAI株式会社」を2015年10月に設立。2016年から本格稼働しています。

### 仕事と生活の両立支援

ヤマハ発動機グループでは、従業員と会社の関係を「ビジネスパートナーシップ」、会社が担う役割を「自立した個人に対する魅力づくり」と定義し、相互確認を前提としたキャリアプランの設計を支援するとともに、ワークライフバランス(仕事と生活の両立)を確保した職場づくりを目指しています。

育児休暇・介護休暇のほか、看護休暇やフレックスタイム制度、短時間勤務制度、配偶者の海外駐在赴任帯同に伴う退職者の再雇用制度など、各自の状況に適した働き方ができるように制度の充実に取り組んでいます。

長時間労働の削減に向けては、心身の健康維持等の観点

から労使協議の上、法令より厳格な「時間外労働に関する規則」を設定しています。さらに、労働組合と会社の双方が参加する「労働時間に関する労使委員会」を毎月開催し、現状確認を行っています。

有給休暇の取得については、労使で目標値を設定するとともに、特に5連続有給休暇対象者にメッセージカードを送付するなどして意識づけを行い、実効性を高めています。

### 職場の安全衛生

ヤマハ発動機では、社長執行役員から権限委譲を受けた中央安全衛生委員会が中心となり、安全で健康的な労働環境の整備をグローバルに推進しています。

例えば、労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS<sup>※</sup>)に基づいてリスクアセスメントを行い、職場の潜在的な危険性や有害性を発見することで、労働災害の予防に努めています。また、安全管理者や監督者、作業主任者を対象とした能力向上のための階層別の教育・研修、安全衛生大会の開催などを通じ、職場の安全と良好な衛生環境を支える人材の育成にも注力しています。

2008年からは、主要製造拠点を対象に、OSHMSレベルに達しているかどうかを本社が審査してグループ認証を与え

る仕組みを導入し、定期的なフォローアップも行っています。

※OSHMS: Occupational Safety & Health Management System

### 社員の健康

ヤマハ発動機は、社員の健康の維持・増進のためにさまざまな取り組みを行っています。

法令に基づきレントゲン検査や血液検査などを行う健康診断のほか、生活習慣病のリスクを抱えた社員への継続的な保健指導、禁煙促進の動機づけなども行っています。社員の家族には健康保険組合を通じた定期健診をはじめ、がん検診や人間ドックの受診対象者への費用補助などを行っています。

海外駐在予定者には、ウイルス性肝炎などの感染症や健康管理全般についての赴任前研修を実施し、出張者も含めてマラリア等風土病感染危険地域へ渡航する社員には感染予防教育と予防薬の提供を行っています。また、担当産業医による海外赴任地の医療巡回を実施し、医療レベルや駐在員の生活環境をモニタリングしています。さらに、急病など不測の事態に対応するため、民間の医療サービス事業者と契約し、相談窓口や緊急搬送サービスの提供を受けています。

また、楽しみながら健康増進を図るために、健康推進センターが中心となって「歩け歩け運動」などのイベントを開催しています。

### > TOPICS

#### コーチングプログラムがスタート

ヤマハ発動機では、社員の声を通して、組織やマネジメント上の課題を抽出するための仕組みとして「社員意識調査」を毎年実施しています。これは、経営、職場、仕事、上司、人事制度など、さまざまな観点での社員の意識を調査把握し、課題を抽出することによって今後の改善や施策につなげていこうとするものです。

2015年の調査では、情報を媒介する役割の管理職が「組織のミドルマネジメント」としての機能を十分には果たせていないとの判断からコーチングプログラムを導入・展開することにしました。2016年はトライアルを行い、2017年からは実施職場を拡大して本格的に取り組んでいます。

ヤマハ発動機は今後も、良質なコミュニケーションで一層風通しのよい職場づくりに努め、現場から経営層まで一体となった事業活動を目指していきます。

## 株主・投資家

ヤマハ発動機では、株主・投資家の皆さまに正確かつ適切な情報を適時に提供し説明責任を果たすために専門部署を設置して国内外でのIR活動を実施しています。

株主総会や四半期ごとの決算発表のほか、国内外の投資家訪問によるIRミーティングや事業説明会等の開催を行っています。またウェブサイトでは、IR情報の開示や個人投資家向けページの運営に加え決算発表や個人投資家向け説明会の動画も公開することで、より多くの株主・投資家の皆さまに当社経営戦略の理解を深めていただけるよう積極的な情報開示に努めています。

2017年からはIR担当者が東京に常駐し、アナリスト・投資家の皆さまとのコミュニケーションをこれまで以上に活発に行っています。

### ヤマハ発動機 新中期経営計画(2016年~2018年)

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/management/mtp/>

### 中期経営計画発表資料

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/report/pdf/mmp/2016medium-plan.pdf>

### ヤマハ発動機 中期経営計画(2016年-2018年)発表会動画

<https://www.youtube.com/watch?v=NU7TAZ1Y-3M&feature=youtu.be>

## 海外投資家訪問

ヤマハ発動機の外国人株主比率は約30%です。海外の投資家に経営と事業の状況を正しく理解してもらうため現地オフィスを訪れIRミーティングを実施しています。また、カテゴリーが広く比較的ニッチな製品を多く持つ当社事業を肌で感

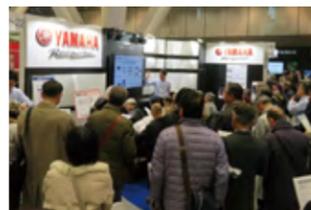
じられるよう、単なるミーティングにとどまらず国内外工場の見学や製品試乗会なども実施しています。



## 国内個人投資家向け説明会

B to Cビジネスが主体であるヤマハ発動機は、個人投資家向けの説明会にも力を入れています。2016年は、国内主要15都市で23回開催し、約4,000人にご参加いただきました。

こうした活動に伴い個人株主の数は着実に増加しています。今後も活動をさらに強化していきます。



## 株主や投資家の皆さまに向けた情報は、ウェブサイトの「IR情報」で開示しています。

### ディスクロージャーポリシー

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/policy/>

### 配当方針

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/shareholder/dividend/>

### IR情報(トップページ)

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/>

## 取引先



## 共に取り組む「モノ創り調達」

ヤマハ発動機グループでは、サプライチェーンとの関係において「モノを買う調達」だけではなく「コストと品質を一緒に創り込むモノ創り調達」という考えを重視しています。

この活動例として、「理論値生産<sup>\*</sup>」のサプライヤーへの展開があります。これは、サプライヤーに対して単にコストダウンを要求するのではなく、生産活動における絶対価値をサプライヤーと共に分析設定し、コスト競争力をどう高めるかに向けて取り組んでいくものです。ヤマハ発動機はこの活動を推進するため、社員を「理論値インストラクター」として教育しサプライヤーに派遣しています。

※理論値生産：生産におけるさまざまな作業を分析して本当に価値を生む作業だけを「価値作業」とし、それ以外を排除していく作業ロス削減手法の一つ。一般的な手法が現状から見たムダの排除を積み上げていくのに対して、最初に理論上の価値作業を分析設定し、その実現に向けて改善に取り組むもの。

## 公正でクリーンな調達活動を

ヤマハ発動機は、「購買取引基本方針」の中で、「信頼と協調の元に、公正な取引を行い、品質・価格・納期およびその他の改善活動を通じて、取引先とより良い関係を築くよう常に努力」することを掲げ、「公正・公平な取引」「遵法・機密保持」「地球環境重視」などの方針を打ち出しています。

また、「調達先CSRガイドライン」では、「安全・品質」「人権と労働環境」「環境への配慮」「リスクマネジメントの実践」「コンプライアンスの徹底」などの方針をサプライヤーに示し、サプライチェーン全体でのCSRへの取り組みを推進しています。

さらに、「グリーン調達ガイドライン」によって環境負荷物質の管理と削減、資源エネルギー効率活用など、環境対応活動をサプライヤーと共に進めています。

こうした当社の取り組みについては、通常業務の中で社員とサプライヤーの意識を高めるとともに、世界中のサプライヤーを毎年一堂に集めて開催する「グローバルサプライヤーズカンファレンス」や、さまざまな機会を通して行われる各種研修会の中でも徹底を図っています。

## 販売店との取り組み

世界各国で展開する販売店は、お客さまとの接点として、ヤマハからの「次の感動」を伝える重要な発信地の役割を担います。ヤマハ発動機グループでは、定期的にディーラーミーティングなどを開催して販売店との連携を強化し、安全運転普及活動や地域貢献活動支援を通じて、共通の価値を提供する販売ネットワークを構築しています。

日本では、ヤマハスポーツバイクディーラーであるYSPを主とした販売店とグループ会社のヤマハ発動機販売(株)が協働で、二輪車の社会環境づくり、マナー促進活動、二輪車リサイクル、植樹キャンペーン環境活動、盲導犬育成募金活動などに取り組み、地域や社会との関係構築において重要な役割を担っています。

## 地域・社会



### 企業と地域社会との共存共栄

ヤマハ発動機グループの活動拠点は世界各地に所在し、地域社会の人々に支えられて事業活動を行っています。また、私たちの製品が世界各地の人々に利用され、より豊かな生活に役立つよう願っています。私たちは企業と地域社会との共存共栄を図り、持続可能な関係が重要であるとの認識に立ち、そのためには地域のステークホルダーの皆さまと日常的なコミュニケーションを通じて信頼関係を維持・向上することが大切であると考えています。

#### 社会貢献活動の重点領域

取り組みテーマ	グローバル課題			ローカル課題
	将来を担う人たちの育成	地球環境の保全	交通安全普及	地域社会の課題
活動内容	・スポーツを通じた心身の育成 ・モノ創りを通じた創造性の育成、など	・地域社会への環境教育 ・生物多様性の尊重、など	・社会への交通安全教育 ・啓発活動、など	・当社製品や人材、ノウハウを使った地域支援、など

### 将来を担う人たちの育成

#### ABEイニシアティブ研修生のインターン受け入れ

「ABEイニシアティブ」研修生として2016年9月に来日した大学生を短期インターンで受け入れました。

「ABEイニシアティブ」は、官民一体となってアフリカの経済成長を支援する政策として2013年のアフリカ開発会議 (TICAD V) で示されたもので、アフリカの若者に対し日本の大学や大学院での教育に加え、日本企業でのインターンシップの機会を提供しています。

今回ヤマハ発動機では、アフリカ5カ国から5人の研修生を受け入れ、「村落向け小型浄水装置ヤマハクリーンウォーターシステムを自国で販売するためのビジネスプランの提示」をテーマにワークショップを行いました。

各研修生は、自国の水の課題とクリーンウォーターシステム

で解決したいこと、関係機関や顧客となり得る人々などを具体的に提示し、販売拡大に必要な取り組みやヤマハブランドのアフリカにおける訴求について活発な意見交換を行いました。



その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/human-resource/archive/index.html>

### 地球環境の保全

#### ビーチクリーン作戦

ヤマハ発動機グループは、沿岸漁業振興やマリンスポーツ普及でなじみの深いビーチの環境保全、持続的利用を目的とした「ビーチクリーン活動」など、地域社会に求められているさまざまな環境保全活動に継続的に取り組んでいます。

2016年6月には、タイのグループ会社3社の呼びかけによる記念公園の清掃をボランティア178人が参加して実施。ヤマハ発動機本社では、近郊の海岸で活動開始から26年目となる「子ガメ観察会&サステナブルビーチクリーン作戦」を開催し、ヤマハ株式会社との合同ブランド連携強化活動の一環として約400人が参加しました。



その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/environment/archive/index.html>

### 交通安全普及

#### トルコで大学生が科学的見地で交通安全を学ぶ

ヤマハ発動機グループでは、世界各地で二輪車の交通事故減少を目的とするさまざまな安全運転プログラムを実施しています。

トルコのYMTR<sup>\*1</sup>では、2016年に180人を超える大学生



に交通ルールの基本や安全運転、危険予知の重要性を科学的見地で学ぶプログラムYSRS<sup>\*2</sup>を実施しました。

※1 YMTR: YAMAHA MOTOR SANAYI VE TICARET LTD.SIRKETI  
※2 YSRS: YAMAHA SAFE RIDING SCIENCE

その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/safe-driving-diffusion/archive/index.html>

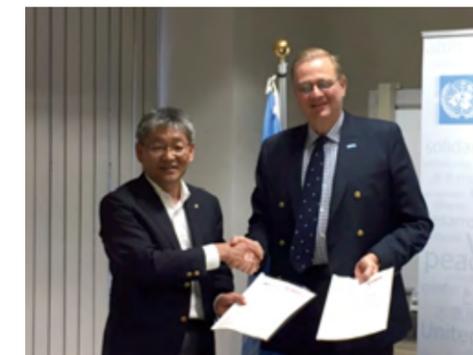
### 地域社会の課題

#### 国連機関でインドBOP層の生活改善プロジェクトを支援

日本の民間企業としては初めてとなる国連ボランティア計画 (UNV) とのパートナーシップ合意書を締結しました。この合意書に基づき、2016年8月から2017年7月までの1年間、UNVを通じて国連開発計画 (UNDP) インド事務所に社員1名を派遣し、再生可能エネルギー利用によるBOP<sup>\*</sup>層の生活改善プロジェクトをサポートします。

当社は、1960年代からアフリカや中南米などの途上国で人々の生活改善・向上に貢献できるビジネスを展開しており、今後も国際社会の課題解決に向けた事業活動を進める上で国連との連携はますます必要であると認識しています。

※ BOP: Base of the Economic Pyramid



その他の取り組みは、下記ウェブサイトで紹介しております。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/profile/csr/local-community/activity/local-society-task/archive/index.html>

# 地球環境

## 地球環境との調和に努め持続可能な社会の実現を目指して

ヤマハ発動機グループは、2010年に策定した「グループ環境計画2020」に基づき、当社製品のフィールドとなる地球との環境調和に努め、社会的責任を果たす企業を目指します。

### 環境活動の計画

#### ヤマハ発動機グループ環境計画2020

取り組み分野		重点取り組み項目	2020年目標
エコプロダクツ	環境・お客さま基点の製品開発による『環境魅力向上』	エコプロダクツの領域は、全社の長期ビジョン“Frontier2020”として展開する	
		「環境負荷物質のリスク低減」 「グリーン調達」の推進	環境負荷物質の把握と代替の推進
エコオペレーション	環境負荷最小化を目指したグローバルな事業活動による『環境保全』	温室効果ガスの排出量削減	CO <sub>2</sub> 原単位で年平均1%削減
		「3Eで3Rを」 「水使用量の削減」 3E:つくりやすく、直しやすく、分解しやすい 3R:リデュース・リユース・リサイクル	限りある資源の有効利用と循環利用の促進
エコマネジメント	グループ環境ガバナンスの仕組み強化による『環境管理』	「グループ全体の環境管理システムを構築し運営」	グループ全体の運営とローカルな活動の連携が取れている
エコマインド	持続可能な地球環境を目指した多様なエコ活動による『環境貢献』	「継続的な環境教育による意識改革」	グループ全員が高い目標意識で環境取組を積極的に行っている
		「感覚環境(臭気、騒音など)の改善」 「地域とのコミュニケーション」 「生態系の保全」	企業市民として地域から信頼され、敬愛を受けている
		「環境を切り口とした積極的な情報発信」	環境先進企業として社会から高い評価を受けている

### 環境経営を推進する体制

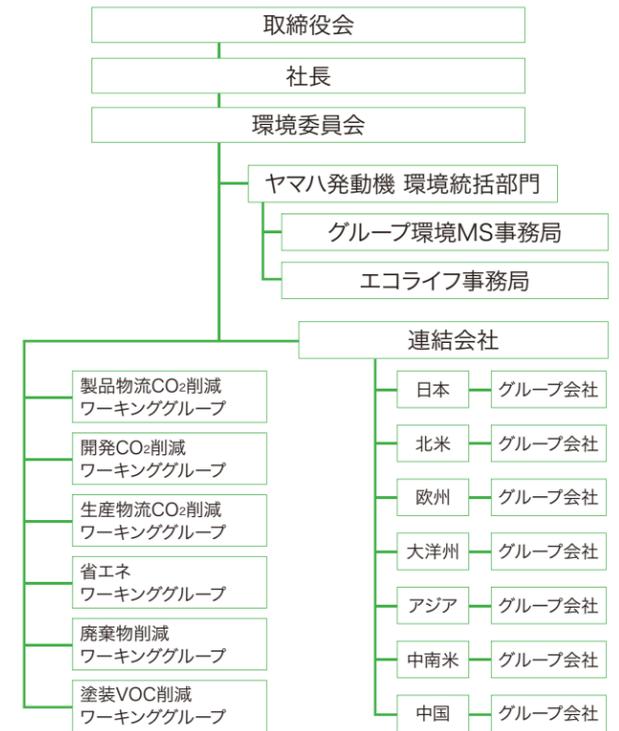
ヤマハ発動機グループでは、代表取締役副社長を委員長とする「環境委員会」を国内外における環境活動の中核を担う組織として位置づけています。この委員会が、環境にかかわる活動の方針やビジョン、中長期の環境計画、環境保全に関連する戦略投資案件、環境モニタリングに関する事項および課題への対応、そのほか環境経営に関する重要課題についての審議を行っています。審議された方針や活動については、必要に応じて取締役会に報告を行っています。

### 直接/間接排出ごとの温室効果ガス排出量の把握と排出量削減活動

ヤマハ発動機グループでは、企業活動に伴って工場で使用燃料の燃焼等からの温室効果ガスの直接的な排出と、工場・オフィスでの電力使用等による間接的な排出をエリア別に把握し、その削減に努めています。

今後も、エリア別の直接・間接排出量をより詳細に把握し、工場・事業所ごとに一層の排出量削減に向けた活動をしていきます。

#### ヤマハ発動機グループの環境企画・推進組織

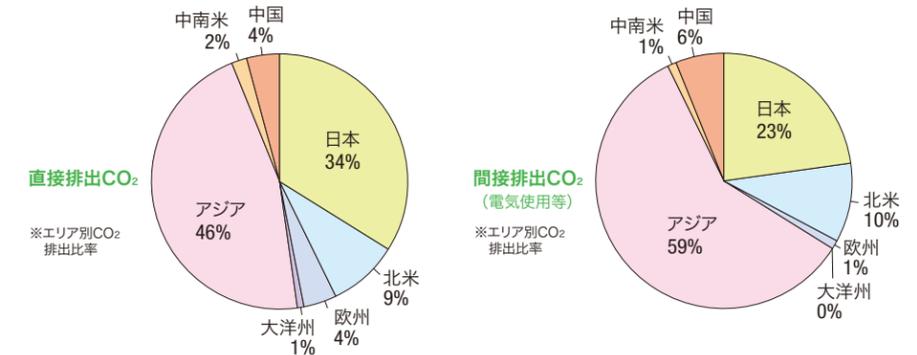


#### 直接排出量

14.7万 t-CO<sub>2</sub>

#### 間接排出量

40.1万 t-CO<sub>2</sub>



#### > TOPICS

#### 現地のNGOと連携して浄水整備を推進

気候変動による水ストレスは水質汚染を拡大させ、健康状態悪化による病人数の増加を招き、社会経済開発を阻害します。そこでヤマハ発動機は、当社開発のクリーンウォーターシステムを上水道が未整備のため飲料水が不足している地域に設置するとともに、現地のNGOと連携して水管理委員会の組織を作り、運用・維持管理の調整といったノウハウの支援を行っています。

アフリカ諸国やインドネシアを中心に2016年末までに22基の実績があり、今後も増設を図りながらノウハウ支援を充実させ、飲料水不足地域での安全な水と衛生環境の継続的な確保に努めていきます。



### ヤマハ発動機グループのCO<sub>2</sub>排出量の推移

二輪車を中心とした輸送機器メーカーであるヤマハ発動機グループは、温室効果ガスの削減を環境分野における最重要課題として取り組みを進めています。グループ共通の目標として「CO<sub>2</sub>原単位削減1%/年」を設定し、製品の開発、製造など、事業活動全般における温室効果ガスの削減を進めています。

また、2013年からは、海外を含む全製造拠点を対象としたグローバル省エネ活動を展開し、環境性(CO<sub>2</sub>削減)と経済性の両立を目指した活動を行っています。日本で培った省エネ技術を国内外のグループ会社へ導入し、エネルギーの効率的利用を進めています。

CO<sub>2</sub>排出量 **54.8万** t-CO<sub>2</sub>

### ヤマハ発動機グループのエネルギー投入量

ヤマハ発動機グループでは、エネルギー使用量削減のため、エネルギーの「見える化」によるロスの可視化を進めるとともに、ロス対策活動や高効率設備の導入などに計画的に取り組んでいます。

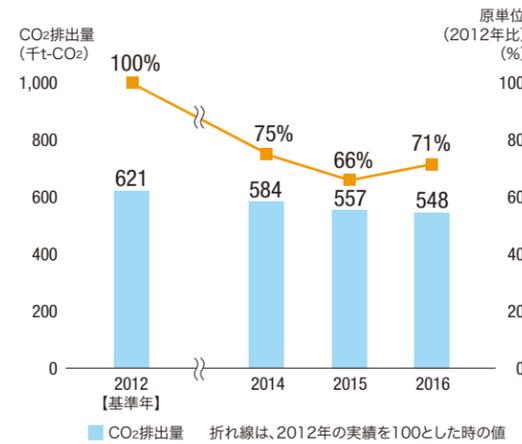
総エネルギー投入量 **1,013万** GJ (電力**750万**GJ)

### 水資源の把握と削減

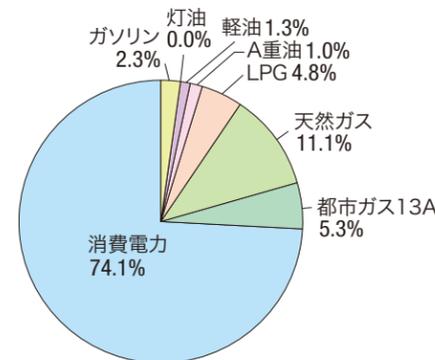
ヤマハ発動機グループは、水資源使用量の削減に努めています。2020年目標を「限りある資源の有効利用と循環利用の促進」と定め、グローバルな水使用量の把握の継続に努め、工場での冷却水循環化や回収水(雨水など)の利用をはじめ、水使用量の削減に取り組んでいます。

水使用量 **547万** m<sup>3</sup>

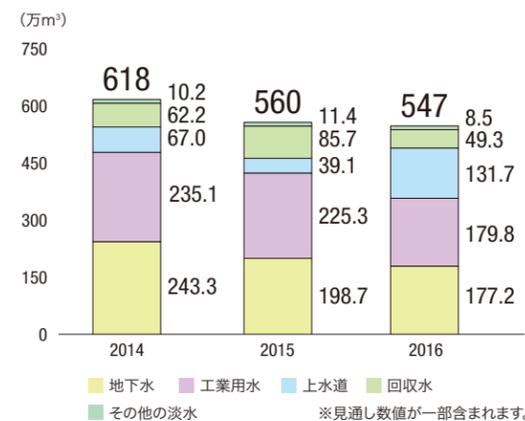
ヤマハ発動機グループ CO<sub>2</sub>排出量



ヤマハ発動機グループ エネルギー投入量



ヤマハ発動機グループ 水使用量



### > TOPICS

#### アセアン戦略モデル「GDR155」を発売

ヤマハ発動機株式会社は、スタイリッシュなフォルムとスポーティな乗り味を調和させたスクーターの新製品「GDR155」をアセアン地域における戦略モデルとして開発しました。ベトナム向けはモデル呼称「NVX」、タイ向けは「AEROX」として2016年12月から発売、以後インドネシアなどアセアン各市場に導入します。

「GDR155」が搭載する“BLUE CORE”エンジンには、始動用動力と発電を兼ねる当社初のスマート・モーター・ジェネレーターを織り込み、静かな始動性を実現するとともに発電ロス低減を図りました。

主な特徴は、

- 優れた加速性と低燃費を実現する155cc水冷“BLUE CORE”エンジン
- スポーティな走行性に寄与する116kg軽量ボディ
- 高い運動性能と上質感を表現した斬新なデザイン、などです。

生産はベトナム、タイ、インドネシアの各工場で行い、各国のお客様の嗜好を取り入れたカラー&グラフィックで豊富なバリエーション展開を行います。



#### グローバル環境ISO14001統一認証による環境ガバナンス強化

ヤマハ発動機グループでは、「グループ環境計画2020」の重点取り組み分野の1つである「エコマネジメント」に基づき、グループ環境ガバナンスの仕組みの強化および環境マネジメント活動の効率的な運用のため、国内海外のグループ会社を対象としたグローバル環境ISO14001統一認証化の取り組みを2012年から進めています。

対象は、日本・アジア・欧米・南米各地域の製造会社を中心に44社に拡大し、2016年末時点で41社が統一認証に参加しています(進捗率93%)。2017年にはすべての対象会社が参加を予定しており、グローバル統一認証の枠組みが完成します。

併せて、比較的環境負荷の小さいグループ会社に対しては、ヤマハ発動機グループ独自の環境マネジメント認定制度を導入、特に海外では、第三者によるカスタマイズ監査を導入し、活動の実効性と効率面で効果を上げています。

これらの取り組みを通じ、各社が抱える環境リスクやマネジメントシステム運用上の課題をグループ全体で共有することで、環境ガバナンス強化につなげていきます。さらに、効率面では、グローバル統一認証を進めることにより大幅なコスト低減を実現しています。



ヤマハ発動機本社で行われたYPMV(ベトナム)のISO14001認証書授与式